

令和5年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	8003	領域略称名	ソフトロボット学
研究領域名	ソフトロボット学の創成：機電・物質・生体情報の有機的融合		
領域代表者名 (所属等)	鈴木 康一 (東京工業大学・工学院・教授)		

(評価結果)

A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの成果があった)

(評価結果の所見)

本研究領域は、三層構造異分野融合推進、ボトムアップエンジン/トップダウンステアリングなどの方法によるマネジメント、多岐にわたる分野融合の研究の推進によって、ソフトロボティクスの理解と創造が大いに進展した。ソフトロボットに関する新規な研究成果が多数得られており、多くの論文が発表されている。教科書（日・英）の出版は大きな成果であり、成果の一部がベンチャー起業につながっていることも高く評価したい。若手研究者育成に関しても、若手中心の企画や研究者交流などが活発に行われ、それが多くの若手研究者のポスト獲得や受賞につながっており、多大な貢献があったと認められる。

ただし、ロボットの柔らかさに関連した技術の寄せ集め以上の、ソフトロボット学の本質に迫ることができたのかは定かでない。体系化に関しても、ソフトロボット学の本質について、適応的な機能を実現するにはどういう柔らかさをどのように組み込めばよいのか、その設計論を明示することが望まれる。ソフトロボティクスという研究自体は以前から存在しており、本研究領域がその底上げに貢献したことは間違いないものの、本研究領域研究によってどの程度新しい学術領域が開拓できたのかは必ずしも明確でない。